

生活環境整備分科会

2007年2月16日

赤 塚 朋 子	塩 田 大 成	増 田 博 之
上 田 由美子	武 井 貴 志	三 宅 徹 治
太 田 光 彦	藤 本 信 義	

目次

1. 本市の重点課題に関する認識

2. 重点課題解決に向けた目標（重点目標）

3. 施策・事業の柱

4. 事業内容

5. 評価指標

6. 市民の役割

参考 施策・事業体系

参考 重点課題・SWOT分析結果

1. 本市の重点課題に対する認識

宇都宮市の生活環境整備分野における重点課題

宇都宮市の
生活環境整備
分野に
おける
重点課題

① 公共交通ネットワークの充実

② 住環境・コミュニティの整備

③ 景観意識の高揚

④ 環境施策の個人レベルへの浸透

⑤ 市民参画システムをつくる

2. 重点課題解決に向けた目標(重点目標)

重点課題に対応した5つの重点目標

5つの重点目標

【重点課題①】
公共交通ネットワークの充実

①現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

【重点課題②】
住環境・コミュニティの整備

②エリア毎の、ならではの「Uri」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

【重点課題③】
景観意識の高揚

③景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する。

【重点課題④】
環境施策の
個人レベルへの浸透

④「めんどくさい」を軽減するのではなく、「それでもやる」理由・動機付けの仕掛けをする。

【重点課題⑤】
市民参画システム
をつくる

⑤施策作成から評価まで、市民参画をもってまちづくりを総括、遂行するシステム、機関を作る。

3. 5つの事業の柱

**5つの
事業の[例]**

①目的地の集約化（コンパクトシティ）を促す公共交通路線デザイン

②ストックを利用した都心居住の実践的推進

③景観形成建造物の認定

④家庭版ISOの認定比率の向上

⑤市民参画による施策評価の実施

4. 事業内容

① 目的地の集約化 (コンパクトシティ) を促す公共交通路線デザイン

① 対象

- 市全域

② 目的

- 交通の効率化と将来に向けたシステム(方向性)づくり
- 居住地域と中心市街地が分かりやすく移動できる環境づくり

③ 事業概要

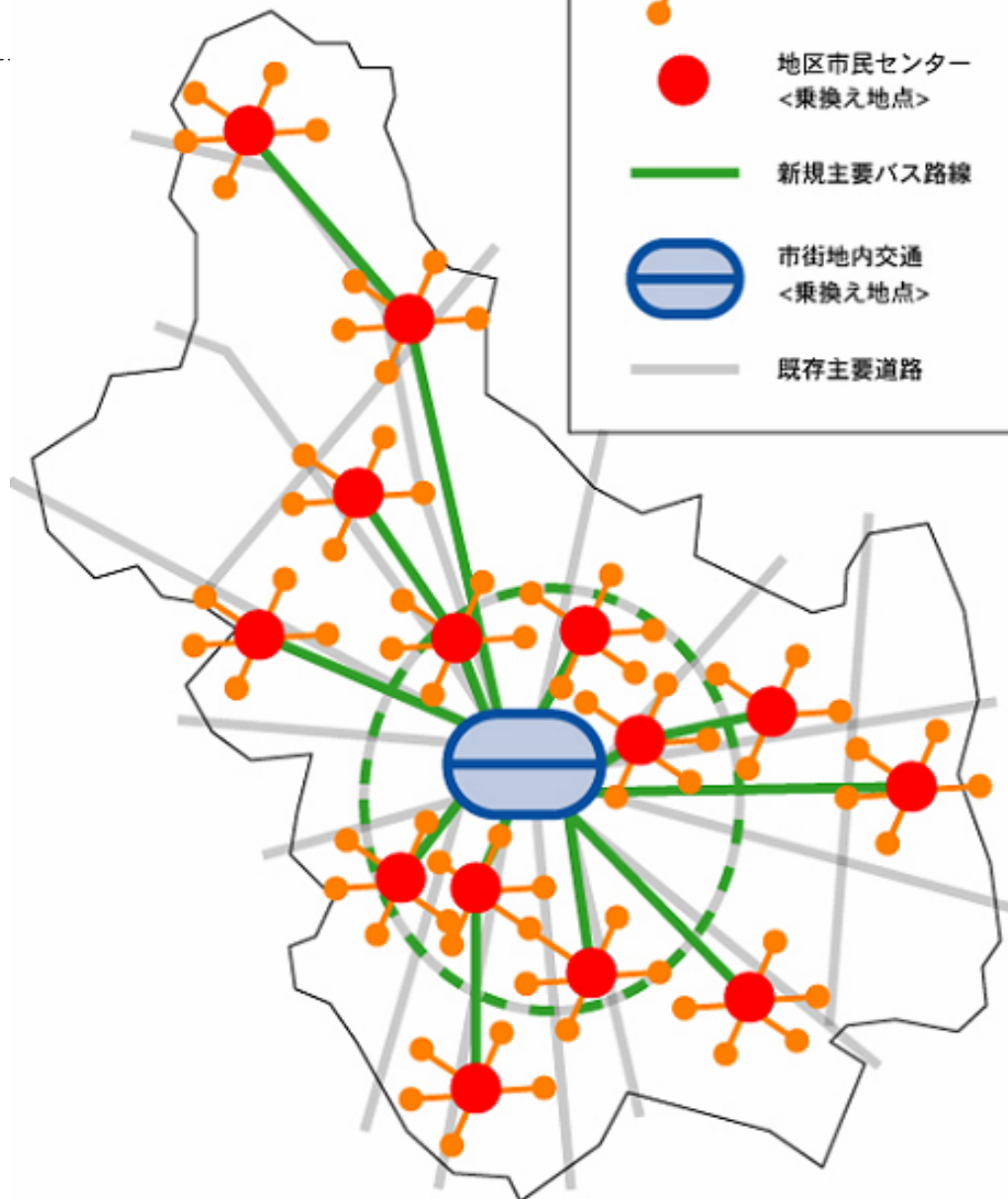
- 現目的地、都市計画、人口や世帯数予測を考慮したうえで、コンパクトシティデザインを作成する。
- 歩いて暮らせる生活圏を設定する。

④ 事業主体

- 市

公共交通ネットワーク概念図

市街地～地区市民センター～各自治会地域への段階的公共交通ネットワークデザイン。



4. 事業内容

②ストックを利用した都心居住の実践的推進

①対象

- 都心に居住したいと考える人、都心に居住する必要性のある人（高齢者）

②目的

- 新築だけでなく、都心部「ストック」をリノベーション・コンバージョンにて「物件」化（住めるようにする）し、都心部ならではのライフスタイルを確立できるようにする。

③事業概要（プロセス）

- 1、都心部生活エリアの設定 例→若年夫婦家賃補助の対象エリア
- 2、ストック情報の収集、整理（物件化されていないもの）
- 3、「ストック」の「物件」化助成 例→水廻り改修補助
- 4、情報発信
- 5、少数初期入居者の発生
- 6、初期入居者をライフスタイルモニターとして生活イメージの情報発信
- 7、2次入居者の発生

④事業主体

- 市

4. 事業内容

③景観形成建造物の認定

①対象

- 市全域

②目的

- 宇都宮市らしさを表現できるような美しい景観を保全・保存し、活用する
- そのための仕組みをつくる

③事業概要

- 50年以上経過している建物、大谷石による建造物について、市で認定できる敷居の低い制度とする。
- そのために、徹底した現状調査を実施する。

④事業主体

- 市

4. 事業内容

④家庭版ISOの認定比率の向上

①対象

- 市全域、家庭

②目的

- 環境施策を個人レベルに浸透させるために、家庭単位での環境保全への動機付けを促進する

③事業概要

- 家庭版ISOの認定比率の集計を発表する
- 地区センター(自治会)単位での拡大活動の推進 例→市から自治会単位へ「御褒美」を
- ISO普及委員の設置

④事業主体

- 市

4. 事業内容

⑤市民参画による施策評価の実施

①対象

- 市民全体

②目的

- 市の計画（総合計画）の進捗状況や、達成度を市民の視点で評価することにより、市民の目線で今後改善すべき点や重点的に取り組むべき点を明確にする

③事業概要

- 市民参画にて評価すべき施策種の選定（市民参画にて）
- 市民参画による評価のシステムづくり

④事業主体

- まちづくり統括機関

5. 成果指標

①重点目標に対する成果指標について以下を提案する。

- 生活環境整備分科会の検討で出された重点目標別の指標案は以下の通りとなっている

重点目標	指標案
現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する	○「日常生活(通学・通院・食・住等)が地区市民センター単位で済ませられる」と感じる割合 ○中心街へ行く際の公共交通利用割合 ○市街地内交通の利便性(移動時間)
エリア毎の、ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。特に中心市街地に絞り、事業提案を進める	○会議者の高要介護度者の割合(低下を目指す) ○年齢階層バランス(均整のとれた年齢階層バランスへ)
景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する	○「景観を気にしている」市民の割合
「めんどくさい」を軽減するのではなく、「それでもやる」理由・動機付けの仕掛けをする	○市民が環境に対して配慮した行動をとっている割合
施策作成から評価まで、市民参画をもってまちづくりを総括、遂行するシステム、機関を作る	○市民参画条例の設置(設置有無)

5. 成果指標

②基本施策(案)に対する成果指標について以下を提案する。

分野	基本施策	指標案
生活環境整備分野	日常生活の安心感を高める	
	市民生活・都市活動の環境負荷を低減する	○市民が環境に対して配慮した行動をとっている割合
	美しい水環境を保全・創出する	
	豊かな自然環境と憩いの空間を保全・創出する	○市民が環境に対して配慮した行動をとっている割合
	快適な住環境を創出する	○「景観を気にしている」市民の割合
	日常生活の衛生環境を向上する	
都市自治分野	市民本位のまちづくりを推進する	○市民参画条例の設置(設置有無)
都市基盤整備分野	機能的で魅力のある都市空間を形成する	○「日常生活(通学・通院・食・住等)が地区市民センター単位で済ませられる」と感じる割合 ○中心街へ行く際の公共交通利用割合 ○市街地内交通の利便性(移動時間)

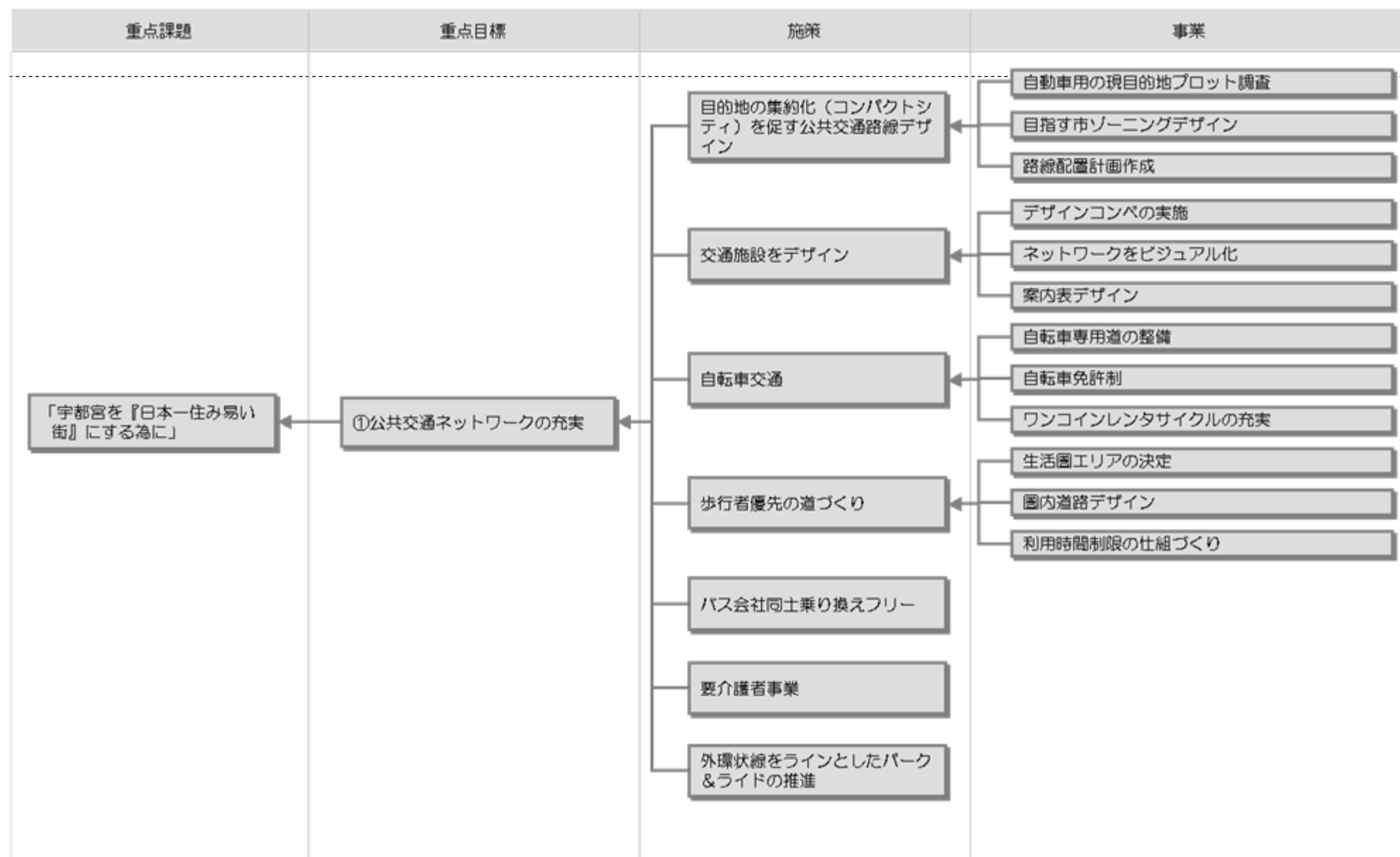
6. 市民の役割

基本施策(案)における市民の役割について以下を提案する。

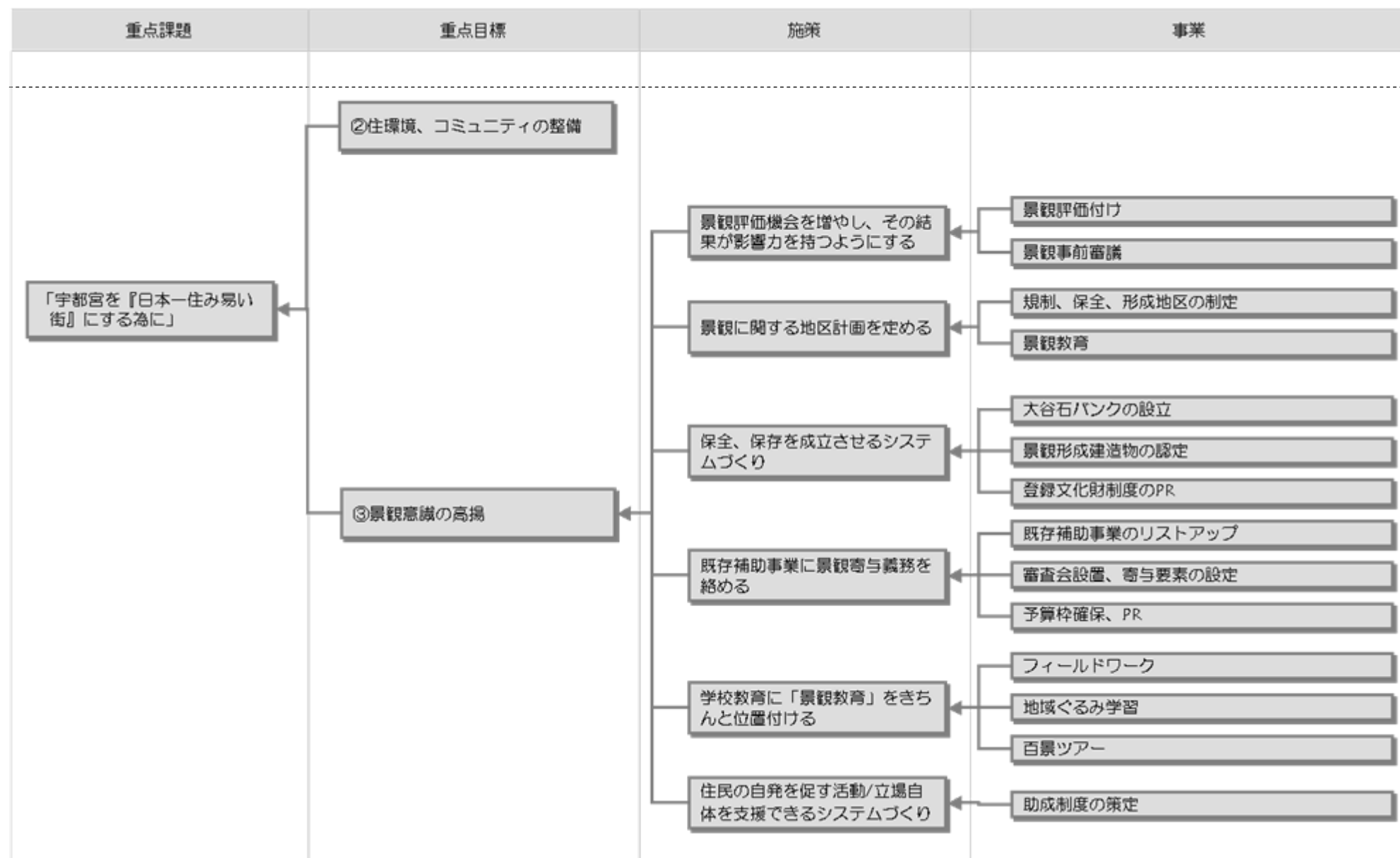
基本施策	市民の役割
日常生活の安心感を高める	・ 子供や高齢者の見守り活動への参画 ・ 社会規範意識の改善
市民生活・都市活動の環境負荷を低減する	・ 環境への意識を高め、配慮した行動をとる（資源物の分別やゴミの抑制、環境美化活動への参画等）
美しい水環境を保全・創出する	・ 水辺アメニティ拠点整備へのNPO等の活動を通じた協働
豊かな自然環境と憩いの空間を保全・創出する	・ 自然環境維持活動への参画、自然環境保全意識の改善
快適な住環境を創出する	・ 景観への意識を高め、配慮した行動をとる
日常生活の衛生環境を向上する	・ 食品安全への意識向上
市民本位のまちづくりを推進する	
機能的で魅力のある都市空間を形成する	

参考資料：生活環境整備分科会 施策体系・施策事業内容詳細

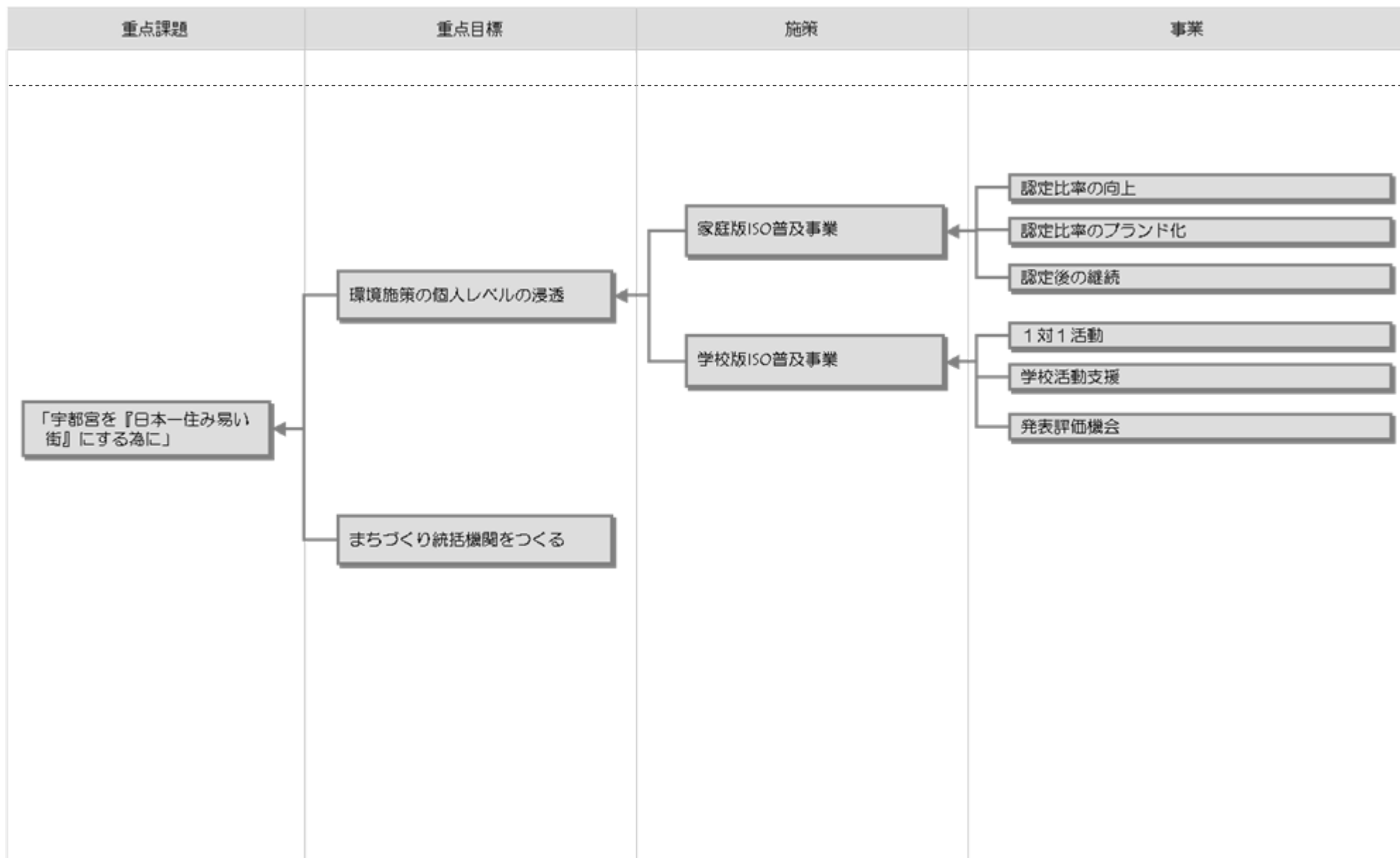
【施策体系】



【施策体系】



【施策体系】



重点目標：現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

施策の具体化～実行を、「良い事業」として結実する為の「基準」が必要。
「基準」は明確、シンプルでかつ、交通用語（時間、価格、系統数等）でないものを。

例えば、高齢者がどのように生活を。どの範囲でどのようなライフスタイルのコンパクトシティ化を推進するか等々、交通システムデザイン過程での選択の基準とする。そして公開。
これは、計画/実行に際しての問題（必ず発生する）に対して、明快な回答（信念）となる。
事業施行過程で、行政/市民共通の評価基準となる。

<フロー>

- 1、市の目指す都市像の方向性検討
- 2、「基準」づくり
- 3、目指す交通ネットワークデザイン方向性検討
- 4、現状課題検討
- 5、事業挙げ
- 6、事業デザイン →施策例へ
- 7、実行（短-中-長期）
- 8、評価（6⇔8の習慣化）

施策例①：「 目的地の集約化（コンパクトシティ）を促す公共交通路線デザイン 」
既存目的地そして将来目指す市ゾーニングを絡み合わせた路線デザインを進める。

事業[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
1、自家用車の現目的 地プロット調査	市全域	市民の目的地を知る。	平日/休日、日中/朝夕各々について	市
2、目指す市ゾーニング デザイン	市全域	都市計画図、人口/世帯数予測を考慮し、コンパクト シティデザイン。歩いて暮らせる生活圏の設定。	？	市
3、路線配置計画作成	市全域	1.2を基に作成。長期プランに立ち、徐々に計画路線に シフトしてゆく。	？	市、バス事業者

重点目標:現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

施策例②:「 交通施設をデザイン 」
景観、利用者、近隣住民に寄与する“ステーション”のデザイン/機能向上

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
デザインコンペの実施	県内外デザイナー	それが置かれる地域と密接な関係を持つバス停留所を目指す。景観意識にも影響する	地域ストック利用、休憩機能、広告、地域案内等を要項に含めた“ステーション”デザインを全国に公募する	市、バス事業者
ネットワークをビジュアル化	利用者	分かりやすく、かっこよく →利用率向上	目的地、乗換等が分かり易いマップ作成	市、バス事業者
案内表デザイン	利用者	分かりやすく、かっこよく →利用率向上	バス会社でなく、時間/目的地が一目で分かる案内表デザイン作成	市、バス事業者

施策例③:「 自転車交通 」
自転車の街として、利用者に「権限」を与え「責任」を果たしてもらう仕組みを作り、ある強制力を持たせる。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
自転車専用道の整備	特にJR駅西市街地	上記	車線の開放	国、県、市
自転車免許制	市民(特に中高校生)	上記	講習、指導の義務化	市
ワンコインレンタサイクルの充実	特にJR駅西市街地	上記	サイクルステーションの設置	市、商工会

重点目標:現状の効率化だけでなく、街の将来を見据えた「公共交通ネットワーク」デザインを具体化する

施策例④:「 歩行者優先の道づくり 」
コンパクト化した生活圏での歩行者優先とそうでない圏を区分する。生活圏通過交通の制限を図る。

事業プロセス	対象	目的	事業概要	事業主体
1、生活圏エリアの決定	市全域	上記	市民参画の元、制定してゆく	市
2、圏内道路デザイン	制定生活圏	通過交通の制限、圏内スピード低減	舗装パターンデザイン、ハンプの設置等	市
3、利用時間制限の仕組みづくり	制定生活圏	進入車両の低減	標識、車止め等の設置等	市

施策例⑤:「 バス会社同士の乗換えフリー 」
行政にて路線決定等全般をコントロールできるよう、「準公営」的な業態を目指す。

施策例⑥:「 要介護者事業 」
市にて設置された20の包括介護支援センターにて統合、調整、再ゾーニングを行い利便性を図る。

施策例⑦:「 外環状線をラインとしたパーク&ライドの推進 」
放射状公共交通網の整理に伴い環状交通も推進し、自家用車のコントロールを図る。

重点目標:エリア毎の、ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例①:「ストックを利用した都心部居住の実践的推進」
新築だけでなく、都心部「ストック」をリノベーション・コンバージョンにて「物件」化(住めるようにする)し、
都心部ならではのライフスタイルを確立できるようにする。

戦災復興にて急速に、コントロールできずに壊しては造ってで出来てしまった宇都宮市街地が50年程経過し、1サイクルを終わろうとしている。
今こそストック利用を本気で進めなくてはならないし、時代に求められている。
宇都宮は、建築物として芸術文化的価値があるものが少ないからこそ住民が気兼ねなく自分の生活文化を育てることができる床がこの都心部は大量に抱えている。
これを利用しない手はない。都心部独自のライフスタイルを確立してしまえば、そこから商業は自ずと成立するし、その商業はターゲットが明確な為、定着する。
現在の都市は「住」からつくり直さなくてはならない段階にまで行ってしまったし、そこからきちんとつくられた都市は足元が揺るがない。
まず「住めるようにする」こと。

- <フロー> (下線が行政による事業)
- 1、都心部生活エリアの設定
 - 2、ストック情報の収集/整理
 - 3、「ストック」の「物件」化助成
 - 4、物件整備(公営住宅等)
 - 5、情報発信
 - 5、少数初期入居者の発生
 - 6、実生活イメージの情報発信
 - 7、二次入居者の発生
 - 8、二次物件の発生
 - 9、商業の発生
 - 10、スパイラル効果、自動的再建

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
ストックの物件化助成制度	都心に居住したいと考える人、都心に居住する必要性のある人(高齢者)	新築だけでなく、都心部「ストック」をリノベーション・コンバージョンにて「物件」化(住めるようにする)し、都心部ならではのライフスタイルを確立できるようにする。	■ 都心部生活エリアの設定 例→若年夫婦家賃補助の対象エリア ■ ストック情報の収集/整理(物件化されていないもの) ■ 「ストック」の「物件」化助成 例→水廻り改修補助 ■ 物件整備 情報発信	市

重点目標:エリア毎の、ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例②:「既成補助事業の見直し、妥当化」
既成補助事業の効果を長い目で再検討する

事業[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
若年夫婦世帯家賃補助制度 の見直し	都心に居住したいと考える人	都心部への定住人口の増加	2-4年のアパ・マン住まいの「人」にでなく、20-40年住める「物件」を増やす補助に回す。	市
空き店舗出店補助制度 の見直し	都心に居住する必要性のある人 (例/高齢者)	同上	ストックのインフラ再整備へ予算を回す。	市
特定優良賃貸住宅 の見直し	都心部の土地建物保有管理者	同上	新築以外へも適用を図る	市

施策例③:「ストックを利用したコミュニティの仕掛け」
「ストック」を「コミュニティスペース」へコンバージョン(用途転換)

事業[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
適正配置計画	市全域	上記	コミュニティの規模による大(地区市民センター)～中(小学校区規模)～小(公民館規模)～極小(ゴミステーション範囲)の配置計画。	市
地域ストック(公民所有問わず) の調査	市全域	上記	特に小～極小コミュニティ用空間の調査。空家・空きテナント等の利用も。	市
ソフト面仕掛、自発的運営へ向 けた住民教育啓発	市全域	上記	-	市

重点目標:エリア毎の、ならではの「Uri」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例④:「地域資源の発掘育成」
助成と条例による整備

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
建築物調査・保護・活用助成	大谷石建造物 築50年超建築物	この土地独自の風景・建物・文化をすくい上げ、宇都宮のブランド力の向上を目指す	建物とその周辺環境の保護・活用への助成と条例の整備	市
上記とJAZZ/カクテル/餃子等 ソフト組合せ助成	市全域	同上	-	市
大谷石廃材リサイクルシステムの 整備	市全域	同上	-	市

施策例⑤:「都心部ライフスタイルデザインコンペ」
将来的に行政負担を軽減する為の投資を行う

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
全国(国際)コンペの開催	都心部の公営住宅/施設	上記	公営住宅/施設を対象に、ストック利用・価値転換にてできる宇都宮都心部ライフスタイルのアイデアを募集する	市
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

重点目標:エリア毎の、ならではの「Uri」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例⑥:「まちづくり提案デザインコンペ」
将来的に行政負担を軽減する為の投資を行う

事業[プロセス]	対象	目的	事業概要	事業主体
デザインコンペの実施	都心部、各地域	空き店舗・空家を活用した公益機能施設を整備し、コミュニティづくりに寄与する	採用となったプランにハード整備費用をつける。 整備後の運営面では固定資産税等の優遇措置をつける。	市
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

施策例⑦:「高齢者向けヘルストレーニングセンターの整備・設置」
加齢に伴う体力(ここでは筋力)の低下防止する

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
ヘルストレーニングセンターの整備・設置	特にJR駅西市街地	元気な高齢者をつくる。衰えさせない為の整備。 既存施設・ストックを活用した適正配置。	運動の開発。地区市民センターへの常設。登録制。	-市
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

重点目標: エリア毎の、ならではの「ウリ」を整理し、個々人の思う住みやすさによった生活エリア選択が出来るようにする。
特に中心市街地に絞り、事業提案を進める。

施策例⑧: 「子育てシステムの整備」
保育に高齢者を活用し、安心して子供を産み育てられる街にする。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
子育てシステム・場所の整備	市内在住の幼児、高齢者	安心して子供を産み、正しく育てられる街に。 元気な高齢者を増やす。 元気な母親を増やす。 地域ストックを活用する。 直接コミュニケーションによる文化継承。	■ 幼児2人に高齢者3人の割合。 ■ 小学校低学年にて“ジジババ教育”のような枠を。 ■ 地域の空き店舗や空家、地区市民センターを活用。 ■ 都心部では空きビルを利用。 ■ 各施設には保育士有資格者を配置。	市

施策例⑨: 「」

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体

重点目標：景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する。

施策例①：「景観評価機会を増やし、その結果が影響力を持つようにする」
市民個人レベルでできる景観への影響力の啓蒙 <遅効性、長期的効果>

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
景観評価付け	市全域	上記	景観評価会の設置。フィールドワークによる評価軸の設定、全地域A-E評価。公表。繰返し。ブランド化。	市、推進機構
景観事前審議	市全域	景観	計画建物等についての景観的審議、強制力	市

施策例②：「景観に関する地区計画を定める」
①の景観審議に先立ち、景観面でのテーマ/ルールを制定する。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
規制、保全、形成地区の制定	市全域	上記	緊急性やアピール度の高い地区をモデル地区と定め、策定懇談会設置。ルール作り。	市
景観教育	市全域	上記	「地区計画」という授業枠を設ける。ワークショップやフィールドワークを行う。	市

重点目標：景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する。

施策例③：「 保全、保存を成立させるシステムづくり 」
大谷石蔵に代表される歴史的建造物の保全/保存/活用への支援の仕組みをつくる。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
大谷石バンクの設立	市全域の所有者/利用希望者	上記	ストックと再利用のシステム作り。大谷石基金の設立。アドバイザー派遣制度。	市、推進機構
景観形成建造物の認定	市全域	上記	50年以上経過している建物。大谷石による建造物について。市で認定できる敷居の低い制度とする。徹底した現状調査が必須。	市
登録文化財制度のPR	市全域	上記	広報戦略から再考する。先導的实施。	市

施策例④：「 既存補助事業に景観寄与義務を絡める 」
補助が出れば(付加分のお金があれば)景観への寄与はきちんと行われるか <速効性、短期的効果>

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
1、既存補助事業のリストアップ	市全域	上記	「空き店舗出店補助」「優良賃貸」等。	市、推進機構
2、審査会設置 寄与要素の設定	市全域	上記	メンバー選定。	市、推進機構
3、予算枠確保、PR	市全域	上記	広報戦略。	市、推進機構

重点目標：景観意識の個人レベル、個人生活への浸透。市民、外来者個人個人が景観に影響している、影響できるという事実を常識化する。

施策例⑤:「 学校教育に「景観教育」をきちんと位置付ける 」
次世代の景観文化意識醸成を図る。 <遅効性、長期的効果>

事業プロセス	対象	目的	事業概要	事業主体
フィールドワーク	市全域	上記	景観教育をいきなり学校でというのは困難。地区計画策定と絡めてやってみる。	市
地域ぐるみ学習	小学校区、中学校区	上記	景観状況把握とテーマ、ルールづくり。	市
百景ツアー	市全域	上記	クラス単位で実施できる体制づくり。	市

施策例⑥：「 住民の自発を促す活動/立場自体を支援できるシステムをつくる 」
景観形成の際に常に最大の壁となる、住民合意を円滑にする為の活動助成。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
助成制度の策定	市全域	時間を作れる立場の人しか景観/街づくりに参画できない。実行にしか助成対象がない。使える人づくりを支援してゆくこと。	助成対象の基準作り。審査/評価方法決め。コンペの必要性検討。	市

重点目標：「めんどくさい」を軽減するのではなく、「それでもやる」理由・動機付けの仕掛けをする。

施策例①：「 家庭版ISO普及事業 」
認定比率の向上が市民の誇りとなるような仕掛けづくり。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
認定比率の向上	市全域	上記	認定比率の集計発表。地区センター(自治会)単位での拡大活動。ISO普及委員の設置。	市
認定比率のブランド化	市全域	上記	地域間競争の状況づくり。表彰、褒美。	市
認定後の継続	市全域	上記	発表の場づくり。表彰、褒美。	市

施策例②：「 学校版ISO普及事業 」
教育的側面からの仕掛け。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
1校1活動	市全域	上記	各校テーマを絞った実践活動の展開。	市
学校活動支援	市全域	上記	ISO取得企業/大学からの出前講座/見学会の開催。	市
発表評価機会	市全域	上記	活動状況をメディアにて全国に発信する。	市

重点目標：施策作成から評価まで、市民参画をもってまちづくりを総括、遂行するシステム、機関を作る。

施策例①：「市民参画条例へ向けた実践的準備」
行政・市民協働が不可欠か、成立するか、参画可能範囲は、を測る、ケーススタディの実施

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
市民参画条例への準備	-	市民提案に相応の責任と報酬を。 行政・学術・民間の各々の得意分野を政策面で上手に利用し合う。	■ 2007年4月以降の総合計画部会に各対応分科会メンバーを数名、審議会に全体から数名参画し、協働にて総合計画を策定する。 ■ その後、ひと流れ経験後に、課題や展望を整理し「条例」へ向けてメンバー参画のもと、検討する。	市

施策例②：「政策ディレクター(室)の設置」
政策を総合的に企画、方向付け、役割分担を行う「創造的」専任チームを庁内に設置する。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
政策ディレクター(室)の設置	庁内	タテワリ行政の払拭。	■ 場合によっては、一部外部委託スタッフを組入れても。 ■ 市長直属のチームとしても。 ■ メンバー選定法は公開する。	市

参考資料:生活環境整備分科会 重点課題・SWOT分析結果

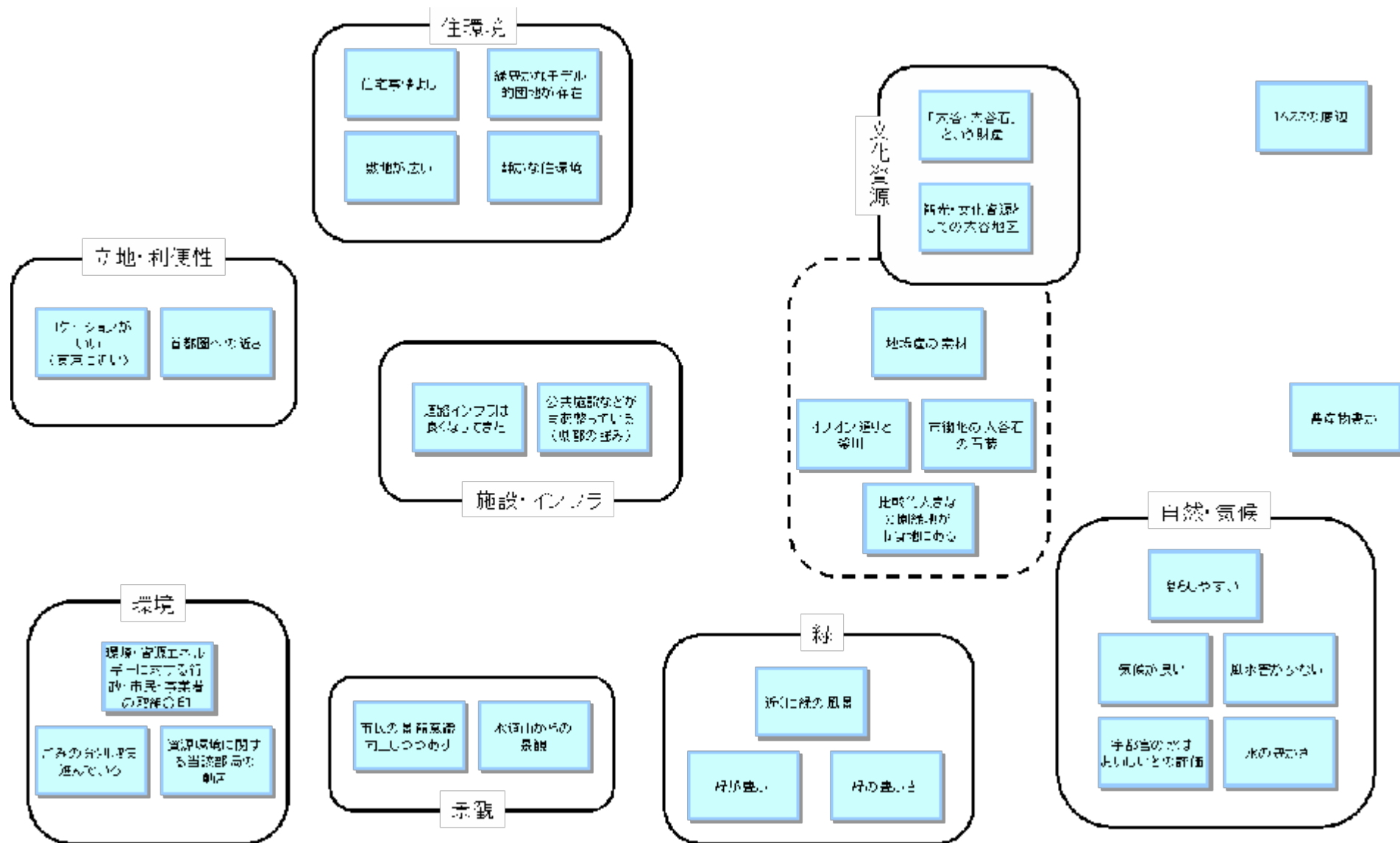
1. 生活環境整備分科会 重点課題

生活環境整備分科会は、重点課題を絞り込み、以下のようなテーマについて課題を設定した。

重点課題	背景・理由	やるべきこと
生活者・利用者の視点に たった公共交通ネット ワークの充実 →都市基盤整備分科会と の調整	●LRT導入が先んじ、既存バスシステムなどの見直しがなされてない。 ●近年バスの本数は増えているが、乗客数は減少。またJR駅を基点としているため路線重複・乗換え・料金など非効率な部分が多い。 ●今後増大する高齢者の暮らしやすさだけでなく、彼等が社会資源として活躍できるためにもアクティビティの機会を保障しておく必要がある。 ●自転車都市・宇都宮ならではの特徴を生かした交通ネットワークづくりができないか。	まちづくり全体をみすえたビジョンのもと、乗用車・バス・LRT・自転車・歩行者などのすみわけと連携、また広い市域を濃淡をつけてカバーできる交通システムを構築する。 ・ITを活用したリアルタイム乗換え案内（バス） ・公共交通チケット統一システム ・パークアンドライド（車＋公共交通、自転車＋公共交通） ・コミュニティ単位のミニバス（コミュニティで運営） ・宮環における循環バス ・既存バス会社の調整。場合によっては市バスも検討。 ・歩・車・自・バスのすみわけの明確化
住環境整備とコミュニ ティづくり（主にまちな か）	●まちなかはマンションラッシュとなっているが、居住者が暮らしやすい生活基盤は保障されているか。コミュニティとのつながりも薄れているのではないか。 ●放置されたままの空き店舗、空き家、空き教室、空きオフィスを有効に活用したい。 ●市独特の資源やまちなかの魅力が十分に発信されてない。	街なかでのステキなライフスタイルを提案できるような基盤整備。 ・歩ける範囲における生活基盤の充実整備。 ・街なかの資源（大谷石、ライブハウス、飲み屋街など）を活用した新たな街暮らし文化の創出。 ・上記の拠点となるようなコミュニティセンターや公営住宅供給（新築より既存ストックの活用）ミクストハウジング、コレクティブハウジング推進→若い建築家からのアイディア募集
景観文化意識の高揚	●昨年夏、文藝春秋に掲載された「日本の醜い景観」ワースト1の汚名を返上したい。 ●すべての市民の誇りとして共有できるような心象景観を創造したい。	・規制と規制緩和の使い分け ・市民参加型の景観評価の機会を増やす。例：公共建造物はもちろん、民間開発のものでも特定エリアで一定以上の規模を有する場合などにコミットできるような検討・審査会をつくる。（まちづくり条例の制定による、市民の参加機会の保障） ・景観文化意識醸成（出前講座の活用推進、学校教育との連携）
環境施策の個人レベルへ の浸透	●宇都宮市では家庭版ISO、学校版ISOなど先進的な取り組みがみられる。これらの徹底周知をはかり、もっと広く個人レベルへ浸透させたい。	・家庭版ISOなどのブランド化。安易に外部委託せずそのブランド性と信頼性をより高めていく。 ・市民の義務としての認識を高める（教育サイドからの仕掛け）
統括的にまちづくりを推 進・評価する仕組みづく り	●総合計画を責任持って推進し達成状況などを評価するのは誰なのか？ ●これまで既に相当数のまちづくり提案・計画が存在していたはず。しかし、実現に至っているのはごくわずかなのはなぜなのか？	・総合計画書に、責任をもってその施策を推進する部署・連絡先を記載。達成目標（数値）の根拠の明確化。達成状況の定期的チェック。それについての市民を含んだ第三者評価の仕組みづくり。 ・行政や民間開発によるのまちづくり施策・事業を横断的に統括し推進していく組織・仕組みづくり。（権限・予算の保障）

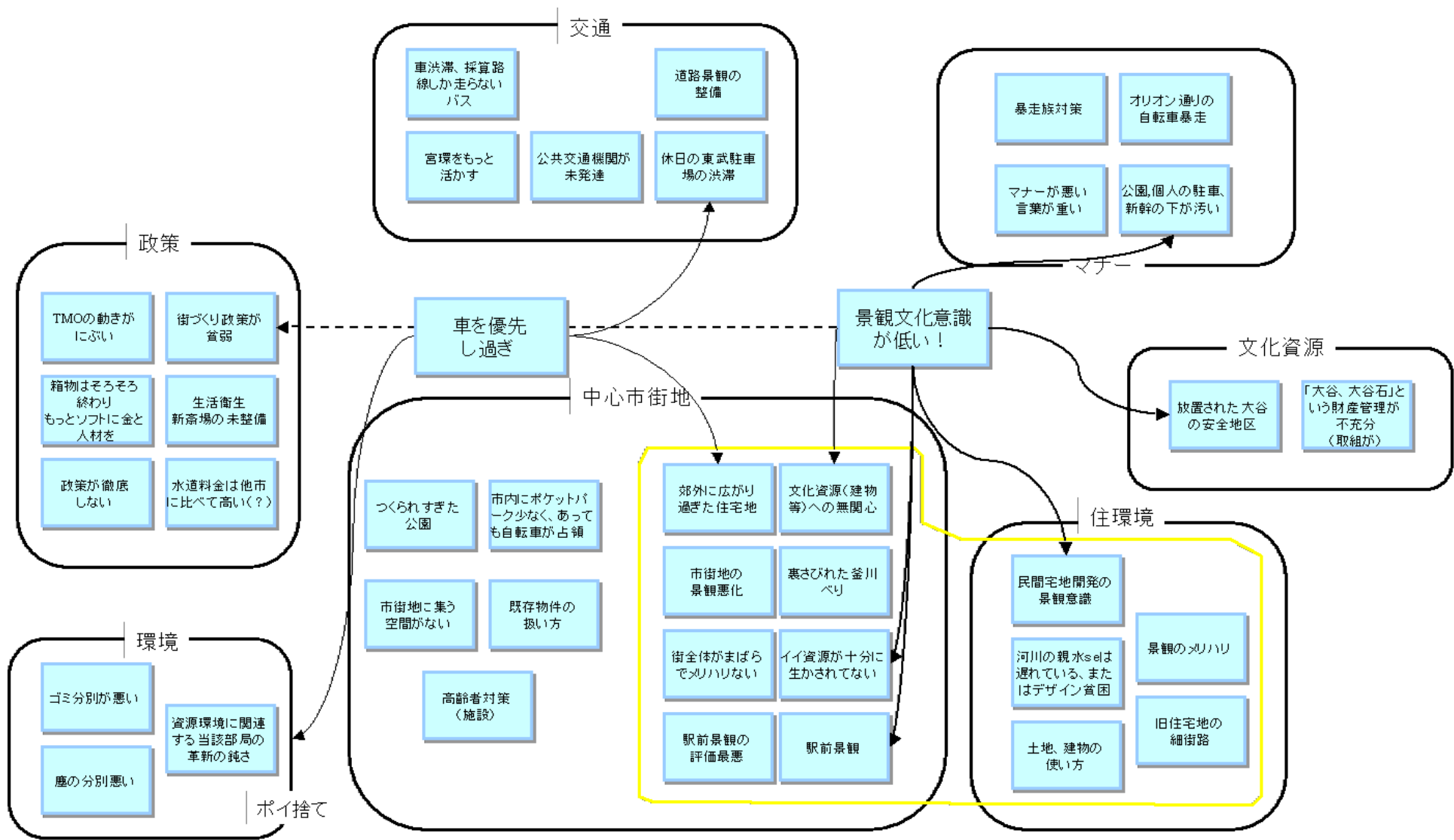
2. SWOT分析結果（1）SWOT分析 ①強み

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



2. SWOT分析結果（1）SWOT分析 ②弱み

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



2. SWOT分析結果（2）SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

生活環境整備分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み

- ①首都圏からのアクセスが良い
 - ◆工場誘致
 - ◆他見からの定住が多い
 - ◆文化交流
- ②緑と水の自然に恵まれ風水害が少ない
- ③大谷地区の景観と大谷石による建造物を保有
- ④周辺部に豊かな住環境を得やすい
- ⑤自動車道路の整備が進んでいる
 - ◆内・外環状線

弱み（問題）

- ①公共交通の整備・ネットワークが悪い
- ②景観・文化意識が低い
- ③まちづくり統括的に支援、補助、制限推進する機関がない
- ④市街地の公共スペース－住環境の魅力がない
- ⑤産業廃棄物量が減らない

2. SWOT分析結果 (3)SWOT分析 ③機会／④脅威

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」は以下の通りである。

機会

循環型社会への移行

- ◇細分化されたゴミの処理の実態が求められる
- ◇資源リサイクルのため、分別が更に細分化される
- ◇公道等へのポイ捨てへの罰則が強化される
- ◇水の豊かさを大切に
- ◇高齢者も容易に理解できる分別細分化の手法が求められる
- ◇外国人労働者などへの資源リサイクルの教育説明が必要となる
- ◇分別が進むと現在のゴミステーションの形態が変わる
- ◇環境エネルギー
- ◇省エネ実現への国際的要求
- 分別が進むと無主物から有主物へ変わって行く
- ◇分別が進むとゴミ収集車は週7日稼働へと変わる
- ◇自治会内でのゴミ環境は美化へ転換する

行政役割の変化

- ◇広域行政の実現(道州制の導入)
- ◇小さな政府、地方行政開花のチャンス
- ◇地方都市間の連携強化
- ◇教育投資の増大

高齢者の貢献

- ◇団塊世代高能力者の時間的余裕
- ◇清原や芳賀の企業に勤める人の大量退職
- ◇元気な高齢者の社会参加余裕
- ◇無職の人が増加
- ◇高齢化により時間あまり世代が増え、文化・環境への関心が高まる

景観意識の高まり

- ◇地域性が見直しが高まり、市の独自性が問われる
- ◇本県の文化遺産に誇りをもつ
- ◇城址公園ができる(景観シンボル)

中心街への回帰

- ◇集中型都市の必要性
- ◇ミニ開発の限界
- ◇都市観光客の増加

生活意義の変化

- ◇大量消費のおわり
- ◇「満足」するジャンルが変わる
- ◇県民意識改革
- ◇個人教育
- ◇自然を重視する社会への回帰
- ◇ゆっくり生活への回帰(省資源、省エネ)
- ◇県民性を知るマナー、態度
- ◇使い回し方の質
- ◇生産されたものが再利用されるようになってきている
- ◇利便性需要→文化需要へ(より日常的な)
- ◇地産地消、Slow Lifeと地域への関心が高まっている
- ◇趣味の質
- ◇生活の質

他

- ◇外国人労働者の増加(低コスト)
- ◇道路インフラは良くなってきた
- ◇地価基準の崩壊
- ◇よその街のよいところを学ぶ

脅威

循環型社会への阻害

- ◇ゴミの最終処分場はいっぱいになる?
- ◇廃棄物課金
- ◇産廃処分場の枯渇

宮らしさの衰退

- ◇宇都宮のことを知らない宮っ子二世の増加
- ◇文化遺産への無関心
- ◇中心市街地に残された大谷石建造物の老朽化
- ◇景気の高まりと共に、歴史的景観が無くなって行く(蔵等の小規模な物)

ストックの増大

- ◇静かな住環境
- ◇空家、空き店舗の増加、廃墟化
- ◇中心市街地に増える駐車場、未利用地
- ◇建物老朽化
- ◇市中心部のスラム化
- ◇北関東道開通により、郊外型ショッピングセンターに益々依存する
- ◇中心市街地に急増するマンション
- ◇高齢化により車への依存度が低くなる
⇒中心部へ
- ◇郊外大型店の撤退
- ◇事業所や店舗の郊外転出

社会不安の増大

- ◇子どもの登下校時の安全確保
- ◇地域のコミュニティはこのままだと崩壊
- ◇規範意識の低下(ルールを守らない)
- ◇外国人労働者の増加(異文化のブツカリ)
- ◇若い人の社会参加意識の低下
- ◇社会階層化が進む(できる者とできない者)
- ◇ポイ捨てが後をたたない
- ◇労働人口の減少
- ◇元気な高齢者の社会参加圧力
- ◇高齢者医療費の増大

公共施設の維持不安

- ◇税收減により都市施設整備が遅くなる
- ◇税收の減少、緊縮税制
- ◇市財政の赤字化
- ◇道路景観の整備
- ◇インフラ老朽化

他

- ◇金のない無職の人が増加
- ◇交通弱者の孤立

2. SWOT分析結果（４）SWOTクロス分析結果

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×機会

強み：首都圏アクセスがよい

- ◇街を楽しむ人の訪れの期待（景観意識）
- ◇大谷石を生かしたオンリーワンの都市観光で東京人をひきつける（景観意識）
- ◇東京から企業誘致ITビルディング（中心街回帰）
- ◇駅前利便顔づくり（中心街回帰）
- ◇首都圏からアクセスが早くなり新しいニュースが身近にとどく対応が早くなる（生活意識の変化）
- ◇首都圏勤務者の週末ハウスをつくる（生活意識の変化）
- ◇自然の豊かさと都市の便利さをあわせもつスローライフスタイルのアピール（生活意識の変化）

強み：大谷地区・大谷石というユニークな資産

- ・緑豊かな郊外に環境共生型住宅を増やす（空家の再利用）（循環型社会）
- ◇自然を生かした教育へ（行政役割変化）
- ◇風水害対策費等の軽減（高齢者の貢献）
- ◇自然に恵まれた高齢者のゆとりある日常（高齢者の貢献）
- ◇恵まれた環境を後世に伝える調和のとれた町並みになる（景観意識）

強み：大谷地区・大谷石というユニークな資産

- ◇大宅石をキーワードにした都市間連携活（行政役割変化）
- ◇住み続ける地域へのこだわり（景観意識）（生活意識の変化）
- ◇大谷地区を石と歴史の文化財学ぶ多くの人によく知ってもらう（景観意識）
- ◇個性ある街の実現（中心街回帰）
- ◇大谷在住の意固地、勝手が変化する（中心街回帰）
- ◇地域への帰属意識の高まり（生活意識の変化）

強み：自動車道路の整備が良好

- ◇上下水道、道路と緑を守り高齢化、少子化、住環境がよくなる（循環型社会）
- ◇環境共生型の住宅（循環型社会）
- ◇首都圏のビバリーヒルズをつくる

<自動車道路>

- ◇広い道路を作るとき電線・ガス・水道を同時にする 経費の節約になる

<全体>

- ◇環状線沿いはファッション性の高い看板を集め、特色ある車窓景観を作り出す（景観意識）
- ◇歩いて暮らせる中心街と郊外部を機能的な公共交通網でネットワーク（中心街回帰）

弱み×脅威

弱み：公共交通ネットワークが弱い

- ◇バス停・電停に大谷石をあしらう（宮らしさ）
- ◇既存インフラと駅と狭範囲のアピール（ストック増大）
- ◇要所にある空き店舗などを更地化しパーク＆ライド（ストック増大）
- ◇バス停・電停の前の空きストックをカフェに（ストック増大）
- ◇渋滞する道路の整備をし歩道、自転車の整える中心部のスリム化、弱者が孤立する（ストック増大）

弱み：景観意識が低い

- ◇自然の豊かさと歴史・文化を多くの人に知らせ、街の誇りになるような必要性を高める（宮らしさ）
- ◇ストック＝悪い、というイメージの払拭（ストック増大）
- ◇スラム化→リフォームによる住宅開発（ストック増大）
- ◇公園、街、川、新幹線の下がいつも汚いから早く徹底させる（社会不安）
- ◇市の誇りをアピールする（社会不安）

弱み：まちづくり統括機関がない

- ◇街づくりの市民憲法をつくる（宮らしさ）
- ◇地価基準、発掘&実例（ストック増大）
- ◇市民のボランティア活性化（公共施設維持不安）

弱み：市街地の公共スペース、魅力的な住環境が少ない

- ◇まちの中に二荒山神社や城址公園がのぞめる公園をつくる（宮らしさ）
- ◇家賃補助等の枠拡大（ストック増大）
- ◇市街地の空ビルを民間開放する。
- ◇機関が弱体であると計画の推進が遅れ市民の協調性が薄れる（公共施設維持不安）
- ◇出張客などが多い建物のロビーにジャズを聴きながらカクテルが飲めるコーナー（公共施設維持不安）
- ◇街中の公共施設に生活必需品があるお店、集える場所（公共施設維持不安）

弱み：廃棄物量が減らない

- ◇廃棄物減量化のキャンペーン実施、罰則の強化、若い人の関心が低い（循環社会への阻害）
- ◇大型商業施設の空き店舗（放置）を防ぐためデポジット制導入（循環社会への阻害）
- ◇社会不安増大、ボイ捨てがさらに増えると思えば条例が増す（社会不安）
- ◇処分場の枯渇→大谷への再投入が始まる（社会不安）

<自動車道路>

- ◇広い道路を作るとき電線・ガス・水道を同時にする 経費の節約になる

2. SWOT分析結果（4）SWOTクロス分析結果

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×脅威

- 強み：首都圏アクセスがよい
- ◇ 東京の影響を受けすぎない。宇都宮らしさを確立し、安易に「東京化」されないようにする（宮らしさの衰退）
- 強み：自然が豊富で風水害少ない（ストック増大）
- 強み：大谷地区・大谷石というユニークな資産
- ◇ 大谷石の廃材を積極的にリサイクル利用し、循環型社会を目指していく意識を高める（産業廃棄物の捨て場になっていたという負の遺産としてのシンボルを「循環型社会」のシンボルとしてプラス活用していく）（循環型社会）
 - ◇ 宇都宮らしさを演出するシンボリックな素材として活用する（宮らしさの衰退）
 - ◇ 市街地に残されている蔵など、大谷石の建造物を地域を代表する良好なストックとして生かしていく（ストック増大）
 - ◇ 社会不安-ずさんだ社会や、自分の住んでいる地域に関心がもてない人々へ、宇都宮のアイデンティティの意識付けの材料として活用する（社会不安）
- 強み：周辺部の良好な住環境
- ◇ 今後空家などが増加すると考えられる郊外の良好な住宅ストックをいかしていく。簡単に壊さない（ストック増大）
 - ◇ 郊外に広がる豊かな自然環境とゆとりある住宅ストックを魅力的な住環境として再構築し、それを宇都宮ならではのアピールポイントとする（宮らしさの衰退）
 - ◇ 高齢世帯、単身世帯が増大する地域における不安を緩和するため、地域のコミュニティ力をつけ、物理的な環境だけでなく真に暮らしやすい住環境を作っていく（社会不安）
- 強み：自動車道路の整備が良好
- ◇ 車の運転ができない高齢者などの増大にあわせ、既存道路ストックを公共交通路として積極的に活用する。沿線の空き店舗も停留所周辺の整備と絡めて、パークアンドライドの可能性も検討。

弱み×機会

- 弱み：公共交通ネットワークが弱い
- ◇ 既存の道路ストックを生かす（ストック増大）
 - ◇ これから増大する高齢者が内に引きこもらず地域の社会資源として広く活躍できるような交通ネットワークを作る。（高齢者の貢献）
 - ◇ 中心市街地で高齢者が車を使わなくても暮らしやすいような公共交通整備（高齢者の貢献）
 - ◇ 便利さだけではなく車を使わないライフスタイル、「スローライフ」「エコな暮らし」を選択できるような街にする
- 弱み：景観意識が低い
- ◇ （景観文化意識が高まっている）この期をのがさず小さなアクションを起こしていく。景観意識を持った人々を集約するような受け皿をつくる
 - ◇ 中心市街地に次々と立つマンション。市場原理だけにまかせず、中心市街地ならではの魅力的なライフスタイルを提案できるようなイメージづくりとそれを推進していく上でのアクションルールづくり。宇都宮の地産文化を生み出せるようなネットワークづくり
- <まちづくりを統括する機関>
- 弱み：市街地の公共スペース、魅力的な住環境が少ない
- ◇ （景観文化意識が高まっている）この期をのがさず小さなアクションを起こしていく。景観意識を持った人々を集約するような受け皿をつくる
 - ◇ 中心市街地に次々と立つマンション。市場原理だけにまかせず、中心市街地ならではの魅力的なライフスタイルを提案できるようなイメージづくりとそれを推進していく上でのアクションルールづくり。宇都宮の地産文化を生み出せるようなネットワークづくり
- 弱み：廃棄物量が減らない
- ◇ 政策はあるが、個人レベルへの浸透
 - ◇ 担当者が変わってしまう。腰を据えてやらなければならない。

まとめ

- ・公共交通ネットワークの充実
- ・住環境（都心も郊外も）の整備とコミュニティづくり 大谷石の活用も
- ・廃棄物・個人レベルへの浸透
- ・まちづくり統括機関をつくる